

学部生活の紹介

作業療法学専攻 3年生の皆さん

作業療法学専攻の3年生は、男子6名、女子13名の計19名が一つのクラスで学んでいます。作業療法学専攻では、4年間に3つの臨床実習科目があります。1年次の実習は夏休み期間(9月下旬)に開講されていて、クラス全員で地域やの病院や施設の見学に行きます。2年次以降の実習は1人~少人数で病院や施設に行くので少し心細いこともありますが、実際の患者さんなどを目の前にして、作業療法の評価や治療について学ぶことができます。臨床実習期間は実習レポート課題もあって大変ですが、作業療法士の仕事を一番実感できる時なのでとても充実しています。忙しさは時期によって違いますが、文系学部比べると少し忙しく、理系学部の中では普通程度の忙しさだと思います。私たちの学年では、ほとんどの人がアルバイトをしています。飲食店や塾講師のアルバイトをしている人が多く、掛け持ちでアルバイトをしている人もいます。

作業療法学専攻を選んだ理由は皆それぞれですが、私は障害のある子どもたちと関わりたいから作業療法学専攻を選びました。作業療法学専攻を卒業しても、就職先は病院や施設だけではなく、色々な可能性があると思います。受験勉強は大変だと思いますが、息抜きもしながら頑張ってください!



大学院生活の紹介

博士前期課程2年 伊佐次 光莉さん



私は学部を卒業後、大学院に進学しました。大学院では、「精神障害者の時間の使い方と地域生活」をテーマに研究に取り組んでおり、地域で長く暮らしている精神障害の方の活動状況の特徴を解明したいと思っています。現在は、研究の成果について学会や論文で発表することを目標に進めています。研究を進めると同時に、作業療法士としても精神科の病院やデイケアで働いています。また、私はCIBoG(情報・生命医学科コンポリューション on グローカルアライアンス卓越大学院)プログラムにも参加しています。このプログラムでは、生命医学だけでなく情報学について学んだり、他専攻の大学院生や教員と意見交換をしたり、国内外の企業や研究機関と関わりを持つことができます。名古屋大学にはこの他にも様々なプログラムがあり、専門領域を超えた交流や海外研修等を行うことができるので、幅広い知識を身につけ、国際的な視点を持つことができ

と思います。大学院生活は、学部時代とは大きく異なり、研究と臨床を両立させ、計画的に進める必要がありますし、より自主性が求められます。しかし、自分で考え行動する分、充実して有意義な大学院生活を送ることができるのではないかと考えています。

博士前期課程2年 中村 直暉さん

私はリハビリテーションに関する知識に加え、研究デザインの設計や統計解析など研究の方法論を学ぶことで、将来臨床で活躍できる人材になりたいと思い、大学院への進学を決めました。現在は「感覚訓練実施後の脳機能変化の検出」をテーマとして、リハビリテーションによる介入効果や回復過程と脳機能変化との関連性について研究を行っています。大学院では専門分野の指導教員だけではなく、セミナーを通して他分野の先生方から広くアドバイスを受けることもできます。また、自分と同じ作業療法士だけではなく、理学療法士や看護師、放射線技師や管理栄養士といった、様々な職種の方とディスカッションを行う機会も多く設けられています。自身の疑問や考えを整理し、研究として形にしていこうと面白さを感じると共に、それを実践する力を養うことが出来るのではないかと考えています。大学院では臨床に、研究に、とても充実した刺激的な生活を送ることが出来ます。様々な人と出会い、様々な経験をし、人間としても成長することが出来る環境だと身をもって感じています。これまでの生活を振り返ると、大学院で得た学びの多さに気付くとともに、進学してよかったと心から思います。

